

2019年度特別支援学校と高等学校との交流及び共同学習実施事業

交流及び共同学習における取組例

県立多可高等学校

単元名

「レクリエーション」の授業において交流及び共同学習を実施（6時間）
4班に分かれてレクリエーションの実施、交流記念ツリーの共同制作（2時間/6時間）

指導目標

- ・高齢者・障害者・児童へのレクリエーションについて実習体験を通して学ぶ。
- ・各年齢や対象者に応じた遊びを学習し、指導者の立場として遊びを提供できるようにする。

事前学習

- ・年間3回の実習（各学期1回）にあわせて、対象年齢や障害の特性などを理解したうえで企画運営ができるように、話し方、接し方などを事前に討論を実施。
- ・レクリエーションの内容を柔軟に工夫し、楽しめるような企画書を作成。プレ発表を行い、毎回の授業のレポート等で振り返り、実習に向けて準備した。

学習活動（具体的な取組）

実習の流れ

第1部

- ・1班持ち時間10分で行い、本校生徒と特別支援学校の生徒が協力して4班に分かれてレクリエーションを実施。

内容：輪ゴム射的、キャラクター福笑い
輪投げ、クイズゲーム

第2部

- ・交流記念ツリー作成
段ボールツリーに各生徒それぞれが飾付を作成して完成させる。
- ・記念撮影

支援と留意点

- ・事前に企画書を作成し、実習当日に協働して活動できるようにミーティング時間を設けて役割の確認を行い、本校生徒が特別支援学校生徒に個別に役割を説明した。
- ・円滑に運営ができるように生徒間でのコミュニケーションを意識させた。あらかじめ本校生徒の名前を呼びやすいもので伝え、困難がある場合は支援しやすい環境を作った。
- ・飾付の作成は用具使用のサポート、作業が滞っている生徒に声かけをしてコミュニケーションをとって作成の支援をした。

評価

- ・学習の趣旨をしっかりとらえ、目標を決め、あらかじめ設定された状況の中で、意見交換や討論を重ね、工夫をした活動ができた。また、生徒一人一人がそれぞれに目標を持ち、積極的に関わることで感じたことや見えてきた課題を改善していくために取り組めた。
- ・特別支援学校の生徒と関わる中で、思いを汲み取ったり、他者理解に努めることができた。

活動の様子



共同制作のツリーづくりの様子



意見交換をしながら制作している様子

事後学習

- ・交流及び共同学習の実習の時に感じた事を意見交換する。
- ・企画・運営を通して改善すべきところや工夫すればより良い方向になったところ、角度や視点を変えて思考したり、活動してみたりすることで関わり方や活動内容の深みが見えてくるように話し合いを重視した取組を実践した。

成果と課題

成果

- ・参加者の特性を事前に理解することにより、特性に応じたレクリエーションができるように十分に準備期間を設け企画や運営に取り組むことができた。
- ・交流及び共同学習を通じて、生徒自身が支援に関する必要性や他者理解の重要性、企画運営に携わることで、楽しさ・喜び・達成感などを感じる機会となり、様々な学びを深めることができた。

課題

- ・指導者や企画者側から見た課題点として、テーマの設置や手順・方法の選定など、専門的知識や配慮が必要と思われる部分で、設置・選定の難しさを感じられた。
- ・事前準備や実習活動の中で、コミュニケーションを積極的に取れていない生徒、自ら積極的に実習活動に取り組み、問題点に対して周囲と協力し解決に向け取り組めていない生徒がわずかではあるが見受けられた。目的の明確化、動機づけや共通認識をもてるよう工夫したい。
- ・参加者の満足度が図りにくい部分がある。